

“み入り”と個体の成長 図-7に示すとおり、コンブ及びら-めんのように 成長の小さい餌料は“み入り”も小さく、モイストペレット及びかにかまのように 成長の大きい餌料は“み入り”も大きい関係がみられるが、既に成長と蛋白摂取量の項で考察されたように、蛋白摂取量が約4～5g（モイストペレット餌料）に成長のピークがあった。したがって 上述の関係は蛋白摂取量が約4g以下においての適用となる。

“み入り”及び個体の成長と蛋白摂取量の関係は、蛋白含量が少ないコンブ（湿重1.2%）や、ら-めん（湿重2.2%）餌料では、個体の成長が限界であり、蓄積された生殖腺は小さくなり、“み入り”の増加に貢献できないことを示すものと考えられる（図-8）。なお 特にコンブ餌料においては、蛋白含量が少ないことの他に シラヒゲウニはコンブ蛋白の吸収利用が十分にできないことも原因していると推察された。

... ..

... ..

